

11月20日(日)

「日うた IN 千葉」から

東北復興支援公演

「私の好きなこの街コンサート」へ

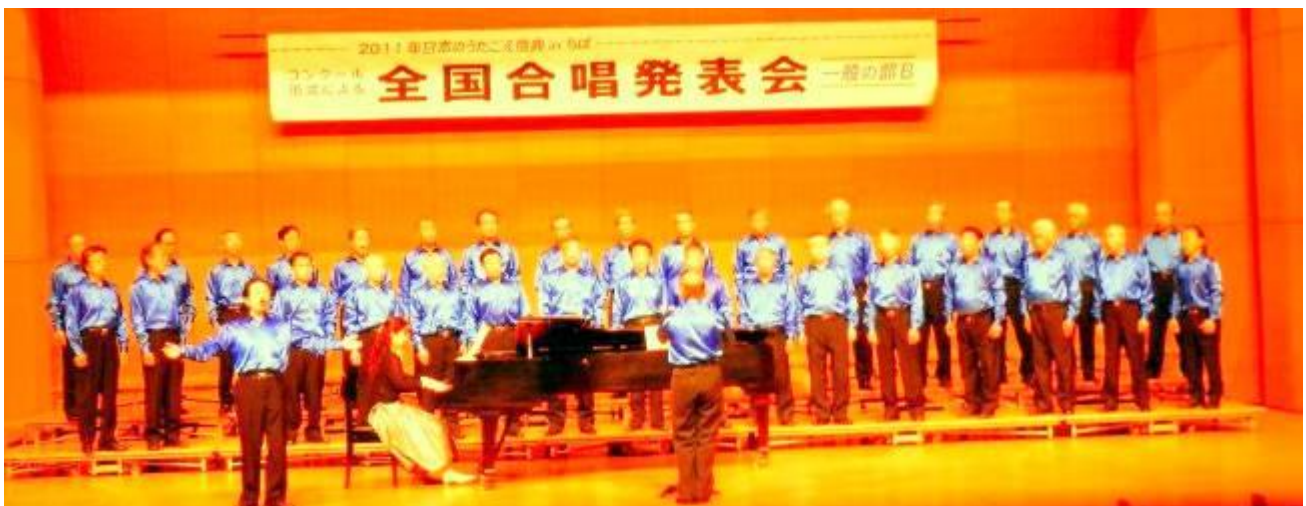
11月21日(月)、22日(火)

□ 11月20日(日)は「日本のうたごえ祭典 IN 千葉」の「交流の部」が「千葉市文化センター」で開かれ、男声合唱団昴は「絵手紙合唱団」の主要メンバーとして参加し、檀先生の指揮、静さんのピアノで「風の花の色」と「絵手紙」を歌いました。ステージは「心のかげはし」の作家、永井喜代子さんも交えて全41名でした。関西紫金草合唱団の「うっかり三人娘？」と一緒にステージに立つべきところ、電車を乗り間違えて間に合わなかったとのこと、やれやれ。



□ 写真はリハーサル風景。藤後名誉団長に描いて頂いた「私の好きなこの街コンサート」(復興支援コンサート IN 陸前高田&大船渡)の横断幕を持ち、胸には村嶋由紀子さんに作って頂いた、復興のシンボル「ひまわり」のコサージュをつけて元気にステージに立ちました。

□ 「交流の部」出演のあと、昴は、すぐ「千葉市市民会館」に場所を移して、リハーサルのあと、「一般の部B」合唱発表会に出演し、本並先生の指揮、静さんのピアノで「シルクロード」と「歎びのナーダム」を熱唱しました。ステージは全35名でした。審査結果は残念ながら選には入りませんでした。元気でよかったのにね、と一緒に残念がって下さるサポートさん多数。



「シルクロード」の演奏、写真提供は長屋(正)さん

□その中から、藤後名誉団長にメールを下さった、東京のSさんのメッセージを紹介します。

昂の歌は、完成度が高いと思いました。

昂の歌は、いつ聞いてもわくわくします。

この「わくわく」が大切な気がします……。。

今度の歌は、男声の魅力いっぱい力強さがよかったです。

男声合唱団ならではの、素敵な合唱でした。

素人の私には、よくわかりませんが、今回の昂の歌は、

うたごえ祭典の審査基準の枠を、はみ出していたのかも知れませんね。

……。いつも温かい応援ありがとうございます……。

□千秋団長の「今回の選曲や歌い方の昂の方向は全く間違っていないと思う。80人のステージで男声合唱の魅力をぶっつけければ、どの審査員も感銘を受ける筈、そこへめがけて頑張ろう！」こそ、われわれの目指す、力強い統一見解としましょう。昂ファンに応えるためにも。

□仙台への移動のバスでの交流自己紹介で、岡邑組織部長から、「昂CMコンサート」企画プロジェクトまとめ役として、団員拡大に「**不退転の決意**」で臨むとの力強いメッセージがありました。われわれも「不退転の活動」でともに。

IN 陸前高田&大船渡

「私の好きなこの街コンサート」

東日本大震災復興支援

□11月21日(日)、千葉での合発のあと、仙台からの、「ふきのとう合唱団」、「仙台合唱団」、「宮城紫金草合唱団」などの歌声の仲間が仕立てた貸切バス2台に分乗させてもらって、一路仙台へ移動しました。途中、スカイツリー見えたとはしゃいだり、楽しい歌声交流や自己紹介などをしながら、あっという間に仙台に着きました。仙台のみなさま、大変お世話になりました。有難うございました。仙台合唱団さんのHPにこのことが記事になっています。訪問してみてください。

□その日の晩は、近くの店で会食、反省会などをしたあと、カプセルホテルやビジネスホテルに宿泊、翌朝、貸切バスで仙台を出発、陸前高田に向いました。ここから以降は、「ふきのとう合唱団」のジャンボ高橋さんに、PAのみならず、反省会の司会なども含めて、ずーっとお世話になりました。体格だけでなく、温かいジャンボな包容力のある人柄に皆すぐ惚れこみました。銘酒の差し入れもしていただき、ほんとうに有難うございました。

□陸前高田に着き、津波被災の実態をバスで巡りながら視察しました。市民の自慢の7万本の松林の美林が全部なぎ倒されたあと、1本だけ残った奇跡の松を対岸に臨む「気仙中学校」は三階まで津波に襲われましたが、避難して犠牲者が出なかったのは不幸中の幸いでした。廃材は綺麗にかたづけられうず高く山になっていましたが、いまだあちこちで重機が動いていました。





□視察の後、仮設住宅団地などへコンサートへのお誘い、宣伝に回りました。第一中学校仮設住宅150所帯、栃が沢仮設住宅49所帯、近隣一般住宅を2人一組で一軒一軒回りました。留守宅もありましたが、快く「行きます」と言って下さった家が多く、被災の話も聞けました。事前に檀夫妻のお手配でピラが行きわたっていたので、特に第一中学校仮設住宅では今夜のコンサートを知っている方々が大勢ありました。一軒

ずつ訪問しての勧誘はひさびさの経験の人が多く、訪問を重ねて行くうちに、改めて自らの「やる気」をふるい起されて、これこそ歌声運動の原点と思い起させてくれた活動でした。

□「ホテル三陽」での美味しい夕食の後、第一中学校体育館に移動、クラブ活動をしていた中学生の皆さんに、明るい声の挨拶で迎えられたあと、皆でシート敷きや、パイプ椅子並べ、ひな壇設置や横断幕つり、PAやグランドピアノ確認、記念品並べ、受付机など会場設営をしました。中学校のほうでも、バスケット部員の皆さんがすでに新品の柔道畳を何十枚も敷き詰めていてくれ、大型暖房ファンが2台、体育館を温めてくれていました。

□一関から峠越えて陸前高田に入る道で雪が降り始めました。この日は陸前高田今年初めての降雪と寒さということで、えらいことになったと心配しましたが、積もることはなく、開会時間だいぶ前から座布団や懐中電灯を持って、続々と会場に集ってくれました。



□と、時間を追って書いていくと、書くことが多すぎて書ききれません。詳しい内容は後で企画している「文集」の記事に譲るとして、トピックスだけを以下に書くことにします。

□来場者は第一中学仮設住宅の方々を中心に130余名。NHKの取材陣も来ていて、翌朝の地元ニュース欄で放映されました。参加した「私の好きなこの街コンサートプロジェクト」のメンバーは、指揮者の本並さん、檀さん、ピアノの山下さん、ディレクターの村嶋さん、特別参加の永井喜代子さん、仙台「ふきのとう合唱団」のジャンボ高橋さんに、「男声合唱団昂」からOBを含めて22名、「関西紫金草合唱団」から4名、「関西合唱団」、「ぐみの木」、「奈良紫金草合唱団」からそれぞれ1名、地元バス運転手の千葉さんを加えて全部で36名でした。

□司会は関西弁こてこての石橋さんと軽妙なコンビで村嶋由紀子さんの二人。親しみのある司会で会場を和ませました。歌う会の司会は乾さんで、ピアノの山下先生とのコンビはお手のもの。



□「絵手紙合唱団」で歌った「風の花の色」と「絵手紙」をこのコンサートでも歌いましたが、この歌のもととなった、ハンデキャプトの青年が永井さんとの絵手紙の交流を通じて、字を覚え詩をかくように成長した奇跡を、「心のかけはし」の著者、永井喜代子さんに会場で語って頂きました。精練された語りが会場の皆の胸に浸みわたりました。

□みんなで歌う会のプログラムの中で、一人のかわいい少女が歌いたいと名乗りを上げてくれました。小学3年生？。皆の前で、無伴奏で「三日月スマイル」を最後まで歌ってくれました。音程といいリズムといいしっかりとれていて、細い声ながら高音部の伸びもあり素晴らしいソロで会場の拍手を呼びました。歌った後で、ほかのおばさんが、この子は両親もおばあちゃんも流されたのだと教えてくれました。なぜ名乗り出て一人でうたったのか、今は亡い家族に聴かせるためだったのでしょうか。清らかでけなげで気高ささえ感じさせたこの少女の心の奥深いところにはたどりつくべくもありません。願わくは「うた」が今後も少女を力づけてくれますように。



□檀さんは、予定曲に替えて、急きょ「おらあ ころがいい」を作曲、ソロで歌い、この会場での披露が初演となりました。これは、ピラの作成をお願いした地元「タクミ印刷」さんが陸前高田の写真集を発刊したなかで、同社社長の熊谷千洋社長が、「おらあ ころがいい」という陸前高田に寄せる自らの気持ちを詩にして載せていたのを、阪神淡路大震災を経験し同じ気持ちを抱いた、村嶋由

紀子さんと檀さんが編詞、作曲したものです。大船渡でも披露しましたが、地元の方たちの感動と涙を呼びました。以下に「タクミ印刷」のTさんから戴いたメールを紹介します。



「おらあ ころがいい」を歌う檀さん。翌朝のNHKテレビで。

□檀美知生様、村嶋由紀子様。支援コンサートからいろいろな事まで有難うございました。涙が出ました。ふるさとを思う気持ちは皆おなじだどつくづく感じました。社長も感動していたように、私も

檀さんが歌っている間、涙が出てとまりませんでした。いろいろな思いがこみ上げて来て……。遠いところから皆さんお疲れさまでした。当日は寒かったけど皆、心はあったかくなって帰ったと思います。ありがとうございました。

以下、次号につづく